



日本株の一段高に期待 ～アノマリーから見る株式市場の動向～

nikko am

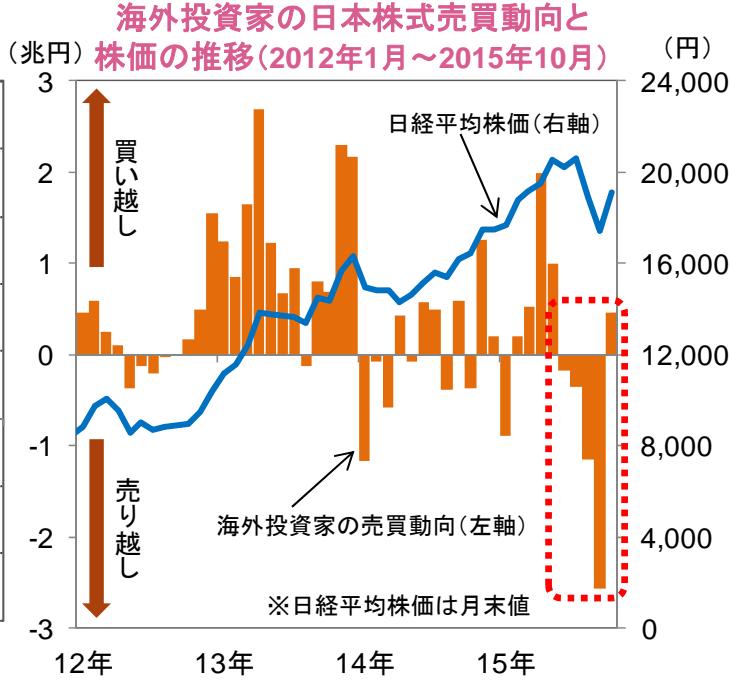
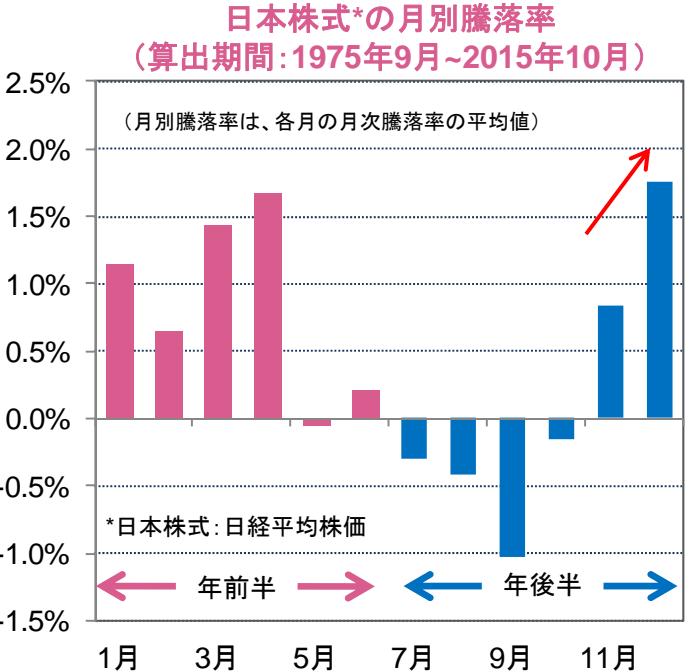
fund academy

楽読 (ラクヨミ)

過去40年における日本株式の月別騰落率によると、株価は年末から翌年央にかけて上昇する傾向がみられます(左図)。この傾向を明確に説明する根拠はありませんが、例えば、季節的な要因として、欧米では1月から新年度入りするため、海外投資家の日本株買いが12月頃から本格化する傾向にあることや、4月は日本で新年度入りすることから、国内の機関投資家からの新規資金が市場に入り始める時期として期待されることも株式市場の押し上げ要因になっていると考えられます。また、3月本決算企業の通期実績や翌期の見通しが発表される5月頃までは、企業業績に対する期待が高まりやすいことが株価の支援材料となることもあるようです。ただし、こうした季節性と株価の因果関係が証明されていないため、市場ではアノマリー(合理的に説明がつかないものの、経験則的に規則性があると思われること)として扱われています。

11月に入ってからの日本株式市場は、前月の大幅高の勢いをそのままに上昇傾向となっています。東証1部に同時上場した日本郵政グループ3社の株価がいずれも公開価格を大幅に上回ったことで、巨大上場イベントを順調にこなしたことや、企業の7-9月期の決算が概ね市場の予想どおりで着地しそうなことで、市場の安心感につながったことが株価上昇の要因とされています。また、6月から9月にかけて日本株を売り越した海外投資家が10月に買い越しに転じるなど、需給の改善もみられています(右図)。

引き続き、中国の景気減速懸念や米国の金融政策の動向には注視が必要なもの、2016年3月期の経常利益(東証一部銘柄、除く金融ベース)は2年連続で最高益を更新すると見込まれることなどから、過去の経験則どおり、今回も来春にかけて上昇傾向となるかどうか、日本株式市場の今後が注目されます。



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄の売買等を推奨するものではありません。

また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものではありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧説資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。